

2021年（令和三年）

12月10日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

11/25～12/1のNYMEX・WTI先物市場は、65.57～69.95ドルの範囲で推移した。

2日は、3日ぶりに反発した。1月限の終値は前日比0.93ドル高の1バレル66.50ドルで取引を終えた。石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟の主要産油国でつくる「OPECプラス」は2日、現行の原油の増産（減産縮小）を2022年1月も続けると決めた。発表後は一時的に大きく下げたが、売り一巡後は材料出尽くしに伴う買いが次第に優勢となった。

週末3日は、反落し、1月限の終値は、前日比0.24ドル安の66.26ドル。OPECプラスは2日開催した閣僚級会合で、今年8月から続けている小幅増産を来年1月も維持することを決定。一方、オミクロン株の感染拡大でエネルギー需要が減少した場合には、来年1月4日の次回会合を待たずに対応する可能性を示唆した。OPECプラスの11月の生産量が目標に達していないとのロイター報道も支援材料となり、朝方は原油買いが先行したが、続かなかった。同日までの1週間の国内石油掘削リグ稼働数は前週と変わらず467基であった。

週明け6日は、大幅に反発した。1月限の終値は前週末比3.23ドル高の69.49ドルで取引を終えた。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」に対する市場の過度な警戒感が和らぎ、原油需要が細るとの観測が後退した。米株式相場が反発し、株式と同様にリスク資産とされる原油先物に買いが波及した面もあった。

7日は、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」をめぐる懸念が後退する中で買われ、大幅続伸した。1月限の終値は前日比2.56ドル高の72.05ドルとなった。イラン核合意再建をめぐる先月29日に約5カ月ぶりに再開された協議では目

立った進展がなく、イランの国際石油市場の復帰が遅れるのではないかと観測も相場の支援材料となった。

8日は、3日続伸し、1月限の終値は前日比0.31ドル高の72.36ドルで取引を終えた。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」の感染拡大の懸念が後退し、原油需要の改善を見込んだ買いが入った。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（1月渡し）は、11月25日～12月1日の間、69.00～81.70ドルの範囲で推移した。12月2日68.80ドル、3日69.90ドル、6日70.70ドル、7日72.80ドル、8日74.00ドルで推移した。

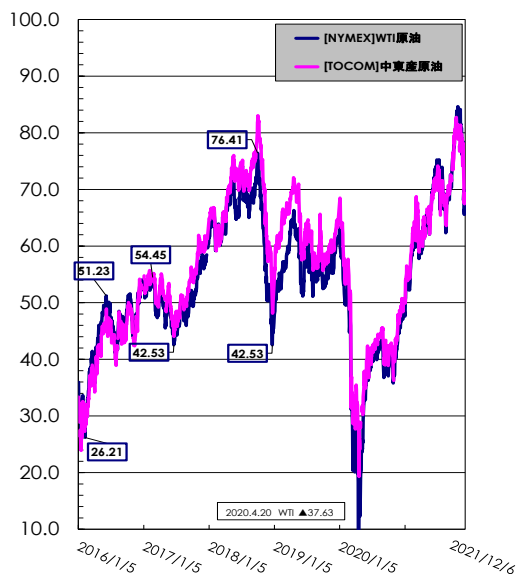
為替は11月25日～12月1日の間、113.26～115.33円の範囲で推移した。12月2日112.98円、3日113.10円、6日113.08円、7日113.50円、8日113.57円で推移した。

財務省が12月7日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月中旬の原油輸入平均CIF価格は、58,949円/klで、前旬比891円高、ドル建て82.23ドルで前旬比1.31ドル高、為替レートは1ドル/113.97円。

そのような中で、12月6日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値下がり、軽油は同0.6円の値下がり、灯油は5円の値下がり（18%ベース）であった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は14週振りの値下がりとなった。この週（11/30～12/6）の原油コストは値下がりしており、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比6.5円の値下げとなった模様。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/28～12/4	3,101 ▲81	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.6 ▲2.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	12/4	9,324 ▲300	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	12/6	68.99 ▼-1.84	▲ 20.9
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	12/6	69.49 ▼-0.46	▲ 23.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月中旬	82.23 ▲1.31	▲ 39.92
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	58,949 ▲891	▲ 31,092
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.97 ▲0.10	▼ -9.29
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/6	114.08 ▲0.69	▼ -9.00

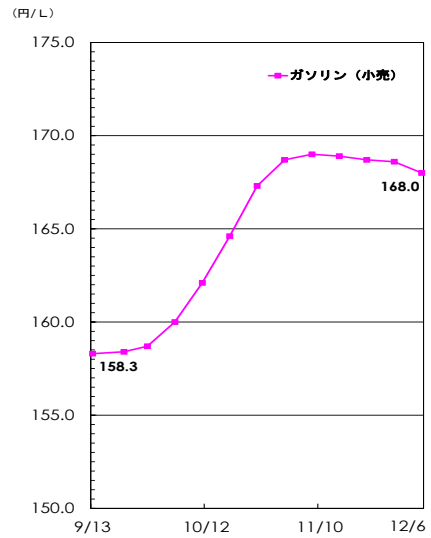
(\$/b)



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/28 ~ 12/4	913 ▼ -30	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	839 ▲ 60	▼ -
	輸出	"	0 ▼ -268	➡ -
	在庫	12/4	1,562 ▲ 74	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/30 ~ 12/6	70.5 ▼ -4.9	▲ 24.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/30 ~ 12/6	61.7 ▼ -8.2	▲ 19.2
	(TOCOM/中部)	12/6	67.0 ▼ -4.2	▲ 22.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/6	168.0 ▼ -0.6	▲ 33.8

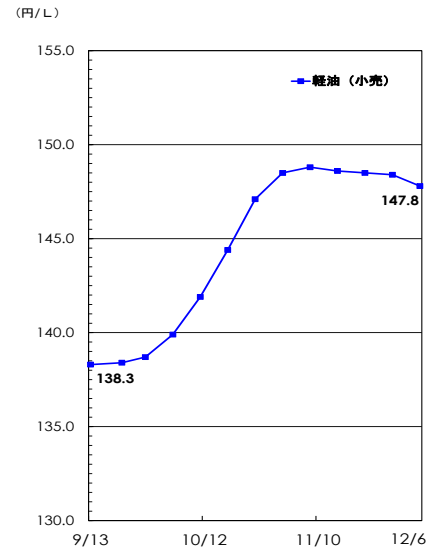
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

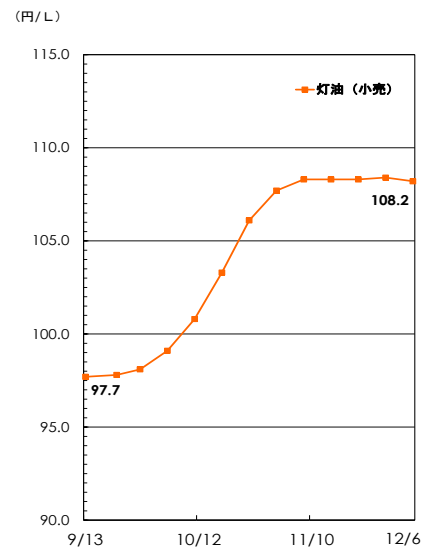
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/28 ~ 12/4	722 ▲ 22	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	610 ▲ 25	▼ -
	輸出	"	54 ▼ -41	▲ -
	在庫	12/4	1,403 ▲ 58	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/30 ~ 12/6	73.1 ▼ -2.7	▲ 25.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/30 ~ 12/6	75.7 ▼ -2.2	▲ 26.6
	(TOCOM/中部)	12/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/6	147.8 ▼ -0.6	▲ 32.9

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/28 ~ 12/4	319 ▲ 29	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	340 ▲ 148	▼ -
	輸出	"	24 ▲ 24	▲ -
	在庫	12/4	2,772 ▼ -44	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/30 ~ 12/6	72.1 ▼ -3.5	▲ 24.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/30 ~ 12/6	66.8 ▼ -5.5	▲ 21.3
	(TOCOM/中部)	12/6	68.0 ▼ -3.0	▲ 20.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/6	108.2 ▼ -0.2	▲ 28.9



■ 関連情報

1 海外/原油

12月8日のNYMEX先物原油は、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」に対する強い警戒感が和らぎ、3日続伸した。1月限の終値は、前日比0.31ドル高の72.36ドル。2月限は0.34ドル高の72.18ドルだった。

オミクロン株をめぐっては、感染力や既存ワクチンの有効性に関する解析が続いているが、景気や燃料需要に対する影響は当初の懸念ほど大きくないとの見方が増えている。この日は、英国が感染拡大抑止に向けた措置を導入する方向と伝わった一方、米ファイザーは3回のワクチン接種で、新変異株にも高い予防効果が期待できるとの実験結果を公表。

早朝は一時売り買いが交錯したものの、その後はもみ合いながら上昇した。

EIAによると、12月6日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.9セント値下がりの1ガロン3.341ドル(100.6円/ℓ)、ディーゼルは同4.6セント値下がりの3.674ドル(110.6円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年11月28日～12月4日に休止したトッパー能力は17.2万バレル/日で、前週に対して15.4万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は310.1万klと、前週に比べ8.1万kl増加。前年に対しては20.7万klの増加。トッパー稼働率は80.6%と前週に対して2.1ポイントの増加、前年に対しては5.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが減産、その他の油種で増産となった。

ガソリン/3.1%減、ジェット/4.0%減、灯油/9.8%増、軽油/3.2%増、A重油/21.7%増、C重油/16.0%増。今週のC重油の輸入は3.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は5.4万kl(前週比4.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

前年比では全ての油種で減少した。

ガソリンの出荷は83.9万kl(対前週7.7%増)と2週振りに増加した。

ジェット1.5万kl(対前週86.4%減)、灯油34.0万kl(対前週

77.0%増)、軽油61.0万kl(対前週4.4%増)、A重油20.1万kl(対前週20.6%増)、C重油11.7万kl(対前週42.7%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (11/28 ~ 12/4)	前週 (11/21 ~ 11/27)	前週比
ガソリン	839	779	▲ 60 (8%)
ジェット燃料	15	111	▼ -96 (-86%)
灯油	340	192	▲ 148 (77%)
軽油	610	585	▲ 25 (4%)
A重油	201	167	▲ 34 (20%)
C重油	117	205	▼ -88 (-43%)
合 計	2,122	2,039	▲ 83 (4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月4日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは156.2万kl、前週差7.4万kl増。前年に対しては43.6万kl少ない。

灯油は277.2万kl、前週差4.4万kl減。前年に対しては15.5万kl少ない。

軽油は140.3万kl、前週差5.8万kl増。前年に対しては19.5万kl少ない。

A重油は76.6万kl、前週差3.5万kl増。前年に対しては3.6万kl少ない。

C重油は171.2万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては18.8万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (12/4)	前週 (11/27)	前週比
ガソリン	1,562	1,488	▲ 74 (5%)
ジェット燃料	831	804	▲ 27 (3%)
灯油	2,772	2,816	▼ -44 (-2%)
軽油	1,403	1,345	▲ 58 (4%)
A重油	766	731	▲ 35 (5%)
C重油	1,712	1,725	▼ -13 (-1%)
合 計	9,046	8,909	▲ 137 (1.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月30日～12月6日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートは円高で、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。

次週(12/9～15)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比6.5円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月30日～12月6日の製品スポット市況は、11月23日～11月29日平均と比べ、全油種・全取引で、値下がりした。

直近週(11/30～12/6)の陸上スポット価格平均値は、前週(11/23～11/29)比で、ガソリンは4.9円の値下がり、灯油は3.5円の値下がり、軽油は2.7円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(11/30～12/6)に、前週(11/23～11/29)比で、ガソリンは4.2円の値下がり、灯油は4.6円の値下がり、軽油は2.4円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは8.2円の値下がり、灯油は5.5円の値下がり、軽油は2.2円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (11/30～12/6)	前週 (11/23～11/29)	前週比
	レギュラー	70.5	75.4	▼ -4.9
	灯油	72.1	75.6	▼ -3.5
	軽油	73.1	75.8	▼ -2.7

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	(期近物/終値) 〔平均〕	今週 (11/30～12/6)	前週 (11/23～11/29)	前週比
	レギュラー	61.7	69.9	▼ -8.2
	灯油	66.8	72.3	▼ -5.5
	軽油	75.7	77.9	▼ -2.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/30～12/6実績値) (単位: 円/ℓ)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -4.9	▼ -8.2	▼ -6.6
灯油	▼ -3.5	▼ -5.5	▼ -4.5
軽油	▼ -2.7	▼ -2.2	▼ -2.5
A重油	▼ -2.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円安の168.0円、軽油は同0.6円安の147.8円、灯油は18ℓベースで5円安の1,947円(1ℓベースでは同0.2円安の108.2円)。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は14週振りの値下がりとなった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは3県で、横ばいも3県、値下がり41都道府県であった。全国最安値は161.7円の埼玉県、その次は、162.6円の岩手県であった。他方、最高値は176.7円の長崎県だった。最も値上がりしたのは佐賀県(前週比0.8円高)で、横ばい高知県他で、最も値下がりしたのは山形県、島根県(同1.7円安)だった。

今週(11/30～12/6)の指標原油価格は値下がりし、為替レートは円高で、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。次週(12/9～15)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比6.5円の値下げとなった模様。次回調査時(12/13)のガソリンの小売価格は、これまでの卸値の転嫁状況を踏まえると値下がりが見込まれる。

(単位: 円/ℓ)				
(資工庁公表) 〔週動向〕	今週 (12/6)	前週 (11/29)	前週比	直近高値
レギュラー	168.0	168.6	▼ -0.6	08/8/4 185.1
灯油	108.2	108.4	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	147.8	148.4	▼ -0.6	08/8/4 167.4

小
売
価
格

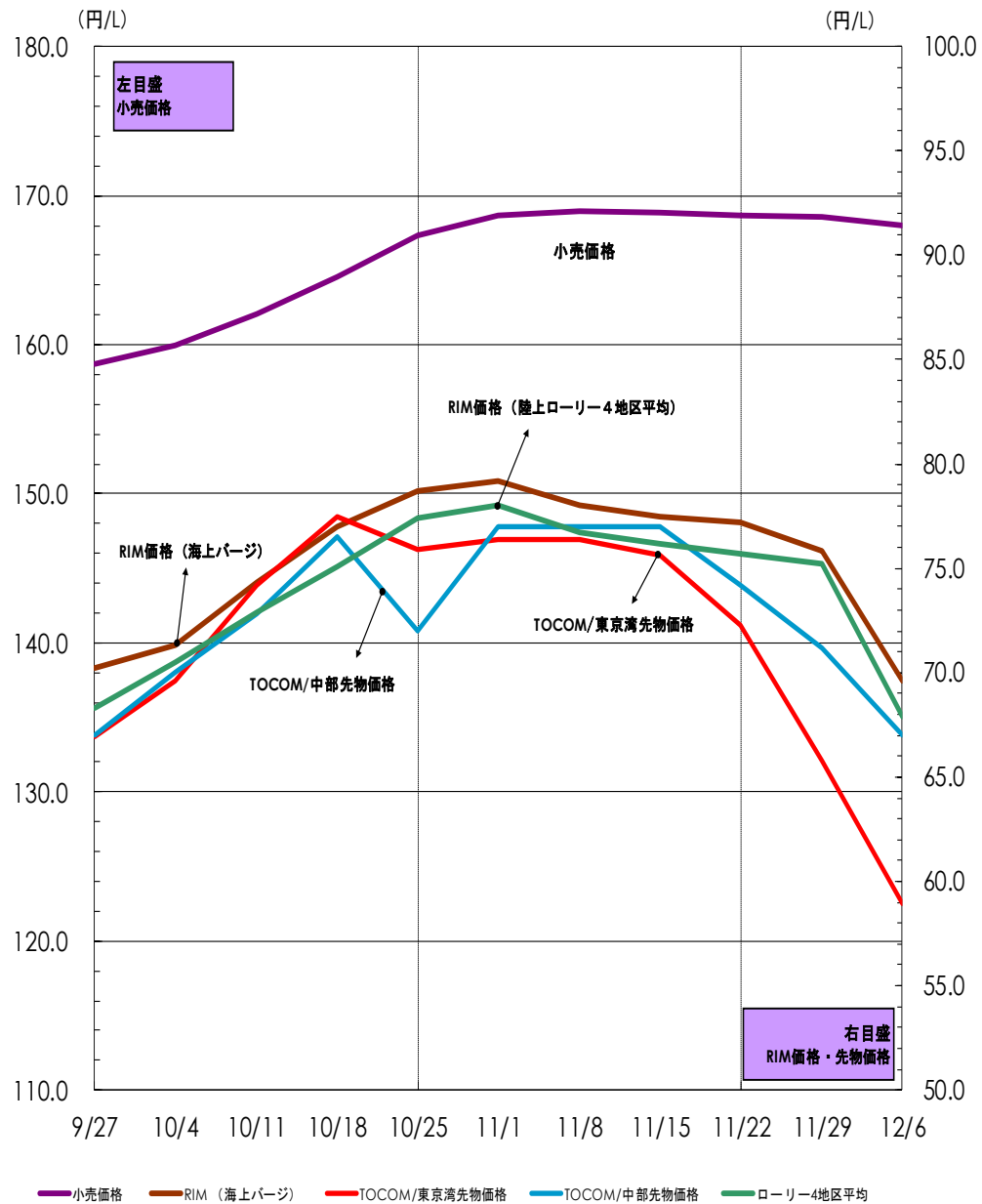
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/9/27 ~ 2021/12/6)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第36号)の公表は、12/17(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在)は、8月25日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。